

平成25（2013）年度  
東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻  
修士課程（社会情報学コース・特別選考枠）  
入学試験問題  
専 門 科 目

（平成24年8月20日 14：00～16：00）

試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。開始の合図があるまで、下記の注意事項をよく読んでください。

1. これは、社会情報学コース・特別選考枠の問題冊子である。
2. 本冊子の本文は3ページである。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には申し出ること。
3. 解答用紙は5枚ある。第1問・第2問は、問題ごとに解答用紙1枚を使用すること。第3問は、選択した用語ひとつひとつについて、それぞれ1枚ずつの解答用紙を用いること。このほかにメモ用紙が1枚ある。なお、解答用紙のみが採点の対象となる。
4. 解答用紙の上方の欄に、問題の番号（例：第1問）、第3問は問題の番号と選択した用語の番号（例：第3問（18））及び受験番号を必ず記入すること。問題の番号、用語の番号及び受験番号を記入していない答案は無効とする。
5. 解答には必ず黒色鉛筆（または黒色シャープペンシル）を使用すること。
6. 解答は日本語によるものとする。
7. 試験開始後は、中途退場を認めない。
8. 本冊子、解答用紙、メモ用紙は持ち帰ってはならない。
9. 次の欄に受験番号と氏名を記入せよ。

受験番号	
氏 名	

## 社会情報学（特別選考） 第1問

次の英文を読み、以下の問いに日本語で答えなさい。

下記出典の文章を掲載しています。

出典 Madrick J. (1998) 'Computers: Waiting for the Revolution', *The New York Review of Books*, Volume XLV, Number 5, March 26, p. 31

- (1) 下線部を日本語に訳しなさい。
- (2) 著者が第1文で提起している問いについて、著者が文章全体で述べている考えを400字程度でまとめなさい。
- (3) この文章が出版されたのは1998年であるが、2012年現在の諸状況を踏まえ、著者の考えについて賛否を明らかにした上であなたの意見を600字程度で述べなさい。

## **社会情報学（特別選考） 第2問**

学際情報学府入学後の研究計画を 1400 字程度でまとめなさい。ただし、(1) 研究の目的、(2) 意義、(3) 関連研究との関係、(4) 具体的な研究内容について、項目を分けて記述すること。

### 社会情報学（特別選考） 第3問

以下の（1）～（18）の中から、3つの用語を選択し、その用語の意味をそれぞれ400字程度で説明しなさい。ひとつの用語について、1枚の解答用紙を用いなさい。その際、必ず選択した用語の番号を解答用紙に明記すること（選択した用語の番号が記載されていない解答は無効とする）。

- （1）表現内容中立規制
- （2）不正指令電磁的記録に関する罪
- （3）商標権
- （4）メディア企業のクロスオーナーシップ
- （5）従軍ジャーナリズム（embedded journalism）
- （6）ウォルター・リップマン（Walter Lippmann）のステレオタイプ
- （7）権威主義体制（authoritarian regime）
- （8）国際政治学における構成主義（constructivism）
- （9）G20 サミット
- （10）マイクロファイナンス
- （11）ネットワーク外部性（ネットワーク効果）
- （12）貨幣数量説
- （13）ティチナー（P. J. Tichenor）らによる知識ギャップ仮説
- （14）ベム（D. J. Bem）の自己知覚理論
- （15）ミルグラム（S. Milgram）の服従実験（アイヒマン・テスト）
- （16）社会的包摂／排除（social inclusion／exclusion）
- （17）権威主義的パーソナリティ
- （18）エスノメソドロジー